2019年9月

今後12カ月のグローバル経済および投資環境の見通し

DWS

DWSの見解

マクロ経済

– 貿易摩擦の負の影響が長引きそうな兆しが引き続き強まっている。
– 経済指標を見る限り、現時点で世界経済成長の減速は一時的なものであり、米国においてもユーロ圏においても本格的な景気後退は見られない。

債券

– 中央銀行が道筋をつけてきたように、金利は長期にわたり低水準にとどまるであろう。よって、ほとんどの債券価格について上昇の可能性はごくわずかであると見ている。
– 景気後退懸念が再び高まると、金利は一層下落する可能性がある。
– それによって利回りの追求がさらに難しくなる。当社は社債と新興国債券を引き続き選好する。

株式

– いくつかの前兆があるとはいえ、株式に見切りをつけるのは早すぎるだろう。特に、先行指標が安定化を見せることになればなおさらである。
– 引き続き低金利がグローバル市場を下支えしている。
– 市場はますます不安定化しているが、株式投資家はまだ配当利回りと買戻しによる利益を確保できそうである。

オルタナティブ

– プライベートインフラといった多様性のある資産クラスについては、ベンチマークリターンからは限られた知見しか得られない。
– インフラは一般的に長期的な需要と予想可能な配当に下支えされるものであるが、セクターおよび案件ごとの特質によるところが大きい。
– 異なるマクロ経済のシナリオでは、補完的な特性を持つインフラ・ポートフォリオによってリスク調整後リターンが改善することもある。

マルチアセット

– 景気後退がないとしても、経済指標、金利、中央銀行の政策、株式のバリュエーションなど、どの要素から見ても高いリターンは期待できない。
– このような環境において我々は、株式とハイ・イールド債券に軸足を置きつつ、戦術的な投資機会を待つ。

ESG（環境・社会・ガバナンス）

– 気候変動は投資家にとって引き続き大きなリスクとなるが、一方で世界経済の全セクターにわたって投資機会を生み出している。
– セクターの観点からは、エネルギー、素材、不動産、公益事業において気候変動リスクが最も顕著に表れる。
– 我々は、IT、公益事業、資本財といったセクターを中心に投資機会があると考える。

当資料は、情報提供を目的としたものであり、特定の投資商品の推奨や投資勧誘を目的としたものではありません。当資料は、信頼できる情報をもとにDWSインベストメントGmbHが作成したものをドイチェ・アセット・マネジメント株式会社が翻訳して提供しておりますが、正確性・完全性についてドイチェ・アセット・マネジメント株式会社が責任を負うものではありません。当資料記載の内容は将来の運用成果等を保証もしくは示唆するものではありません。当資料記載の予測は、それぞれ下記時点のDWSインベストメントGmbHの見解であり、市場の環境やその他の状況によって予告なく変更することがあります。マクロ経済：2019年8月30日、債券：2019年9月12日、株式：2019年9月6日、オルタナティブ：2019年9月13日、マルチアセット：2019年9月24日、ESG：2019年9月16日。

これまでとは異なる景気サイクル

現時点では経済は順調に見えますが、今後の見通しはそれほどでもありません。ただし、これまでとは異なる景気サイクルの中で特に目新しい考えではないと言えるでしょう。我々は引き続き警戒が必要と考えます。

❝ 先行指標の多くが暗い見通しを示す中で、サービス業と個人消費は引き続き堅調です。債券市場が示すサインは厄介なもので、政治リスクも高まっているように見えます。我々は引き続きリスクを注視します。❞

ステファン・クロイツカンプ
チーフ・インベストメント・オフィサー

市場の地合いは素晴らしいものがあり、これには理由があります。米国と一部欧州の労働市場は非常に強く、現時点に限って言えば企業業績も堅調です。企業のバランスシートは健全で、債務の不履行も引き続き低水準です。原油価格は適正で、利上げリスクもありません。加えて、ドナルド・トランプ米国大統領はいつでも誰にでも意見します。大統領が良かれと思った提案をありがたいと思う人は多くはありませんが…。[1] 投資家はこれ以上何を望めるというのでしょうか？いくつか思い浮かぶことがあります。まずは、目の前で様々な警告ランプが灯っていることを懸念すべきです。

一番まぶしい警告ランプは米国のイールドカーブの逆転です。過去に起きた逆イールドは景気後退の前触れとなることが通例でした。米連邦準備制度理事会（FRB）は明らかに神経質になっており、「予防的利下げ」という先制手段を既に取ったほどです。一方、欧州においては、欧州中央銀行（ECB）がおそらく9月に全く新しい金融政策のパッケージを打ち出すことが見込まれており、財政刺激策を求める声も一巡しています。他にも懸念材料はあります。世界の製造業はあたかもエンジンが止まる前のようなガタつきを見せています。よって、経済全体で見ると堅調であるとは言えないのです。米国大統領はFRBに金利引き下げの圧力をかける一方で、同時に米国経済の拡大について誇らしげなメッセージを発していますが[2]、現在の経済状況はこれと同程度に理解が困難なものです。

順調な経済と計測器に灯る警告ランプを両睨みしながら苦労しているのは米国大統領だけではありません。投資家の多くもつい最近大きな間違いを犯してしまい、これが投資家にとって問題をよりいっそう複雑にしています。過去に警告サインであったものに注意して株式市場から足早に立ち去った人たちは損をしました。2009年以降の株価調整局面は、後から振り返ってみると長期的な株価上昇における一時的な中断だったためです。そのため、景気後退について断言したり、強気相場は終わったと述べたりすることには今は誰もが慎重になっています。しかし、強気な投資家でさえも、景気後退の可能性が全くないとは言い切れないのです。[3]

堅調な経済と不安なムードによって生み出された憂慮すべきギャップが形となって表れたのがイールドカーブです。8月には、2007年以来はじめて10年物米国債利回りが2年物米国債利回りを下回りました。1957年以来、米国では逆イールドは9回発生し、これらは2年以内に景気後退が始まる先触れとなりました。しかしながら、このような過去の事象を額面通り受け取って、米国の景気後退が迫っていると結論付けるには慎重になる

1 8月に、メッテ・フレデリクセン・デンマーク首相は、トランプ米大統領のグリーンランド購入の申し入れを拒否しました。ジェローム・パウエルFRB議長も一貫してトランプ米大統領の利下げ圧力に完全には従っていません。
2 8月14日、23日、24日の米国経済について触れたツイッター投稿をご覧ください。また、8月3日、7日、8日、14日、15日、19日、21日、23日、27日、28日のFRBに関するツイッター投稿もご覧ください。
3 ここでの景気後退とは、2四半期連続でマイナスになるというテクニカルな意味ではなく、失業者数の高止まりと設備稼働率の低迷が長期的に続くことを意味しています。

当資料は、情報提供を目的としたものであり、特定の投資商品の推奨や投資勧誘を目的としたものではありません。当資料は、信頼できる情報をもとにDWSインベストメントGmbHが作成したものをドイチェ・アセット・マネジメント株式会社が翻訳して提供しておりますが、正確性・完全性についてドイチェ・アセット・マネジメント株式会社が責任を負うものではありません。当資料記載の内容は将来の運用成果等を保証もしくは示唆するものではありません。当資料記載の予測は、2019年8月29日時点のDWSインベストメントGmbHの見解であり、市場の環境やその他の状況によって予告なく変更することがあります。

必要があると考えます。前回までの逆イールドは、経済、政治、金利政策、テクニカル要因、人口動態といったものが引き金となっており、逆イールドが発生したそれぞれの時点においてその要因は全て異っています。現在の逆イールドは殊の外、特異な状況を反映しています。

1. 中央銀行が量的緩和やマイナス金利といった異例の金融政策を取り続けているため、金融市場にゆがみが生じています。その結果、現在、全世界で16兆米ドル以上の債券がマイナス利回りになっています。これは米国外の投資適格債券残高の半分にも上ります。これが明らかに米国長期金利の下押し圧力となり、それによってイールドカーブによる将来の予見性が影響を受けている可能性があります。
2. 米中世界二大経済間の貿易摩擦が膠着しており、終結の兆しはありません。
3. 貿易摩擦は世界に波及効果をもたらしています。中国が国内の景気刺激策に目を向けるようになる中で、オーストラリアなどの原材料輸出国、欧州の機械産業、米国の携帯電話会社などに影響が出ています。

さらに懸念すべきは、特に米国をはじめとする多くの国において、無謀なほどに国家債務が積み上がっていること、さらには、保護主義的な経済政策を取ろうとしているポピュリスト政権が台頭していることです。経済が厳しくなった時にこのような政権がどのように反応するか予断を許しません。

中期的に心配すべき理由は数多くあるものの、我々は危機が差し迫っていると言うには時期尚早であると考えます。余りあるほど前向きなデータがあり、それは現時点で既に史上最長となっている株価上昇を裏付けるものでもあります。一つの要因はおそらくサービス業の成長でしょう。サービス業は製造業ほど在庫や投資サイクルの負担が大きくありません。また、労働市場が堅調なことから、消費者は多大な消費を続けています。さらに、現在経済が若干鈍化しつつあることで、過熱リスクが軽減され、中央銀行が再び金融緩和に踏み切ることになったのです。

何を投資対象として選好するかについて、この状況はジレンマです。リスク資産に立ち戻ることが一見魅力的に映ります。来年までに世界経済の成長がさらに鈍化するとは見込んでいないことからも、なおさらそう言えます。しかし、欧州における名目のマイナス金利、米国における実質のマイナス金利、逆イールドカーブといった債券市場からの懸念すべきサインを全く無視してしまうわけにもいかないのです。

つまり、引き続き警戒を緩めないということです。株式のリターンは一桁前半を見込んでおり、配当収入がリターンの源泉になるでしょう。地域的な選好はあまりありません。中期的には過去10年同様、米国株式が引き続き世界の各地域の株式を上回るでしょう。しかしバリュエーションの高さや楽観的な業績予測から、米国株式は景気後退の影響を受けやすいでしょう。他の選択肢が不確かだという理由だけで株式に集中することが賢いやり方だとは考えていません。中央銀行からの前向きなサプライズが期待できない状況においては、幅広いマクロ経済のデータの改善がなければ、再び株価が上昇することはないと見ています。

債券については、前四半期から目標利回りを引き下げました。さらなる利回り低下の可能性も排除しません。ただし、今後12カ月で金利は若干上昇すると見通しています。現時点では、債券投資家にはほとんど選択肢はなく、許容できるリスクを取ってプラス利回りの取れる資産に投資するほかありません。我々の見方では、投資適格社債と米国長期債がそのような対象となります。特定の新興国債券についても選好します。

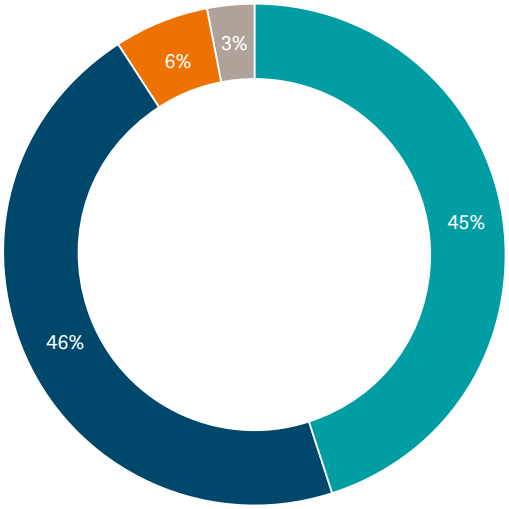
これだけの政治リスクがあるにもかかわらず、現時点で為替の大きな不均衡は見られません。よって、12カ月先の目標を1ユーロ＝1.15米ドルに据え置きます。投資家のリスク回避が強まれば、安全通貨とみなされている円が値上がりすると予測しています。我々はブレグジットの合意なき離脱が回避できるというメインシナリオを描いていますが、そうなれば英ポンドも値上がりする可能性があります。原油については横ばいとなるでしょう。金については、力強さという点では劣るものの直近の上昇が継続する可能性があります。

我々の今後12カ月の見通しにつきましては「DWSの見通し」をご覧ください。

当資料は、情報提供を目的としたものであり、特定の投資商品の推奨や投資勧誘を目的としたものではありません。当資料は、信頼できる情報をもとにDWSインベストメントGmbHが作成したものをドイチェ・アセット・マネジメント株式会社が翻訳して提供しておりますが、正確性・完全性についてドイチェ・アセット・マネジメント株式会社が責任を負うものではありません。当資料記載の内容は将来の運用成果等を保証もしくは示唆するものではありません。当資料記載の予測は、2019年8月29日時点のDWSインベストメントGmbHの見解であり、市場の環境やその他の状況によって予告なく変更することがあります。

欧州の投資家向けアセットアロケーション

現状のトレンドから利益を得、機会を求め、リスクに注視する。

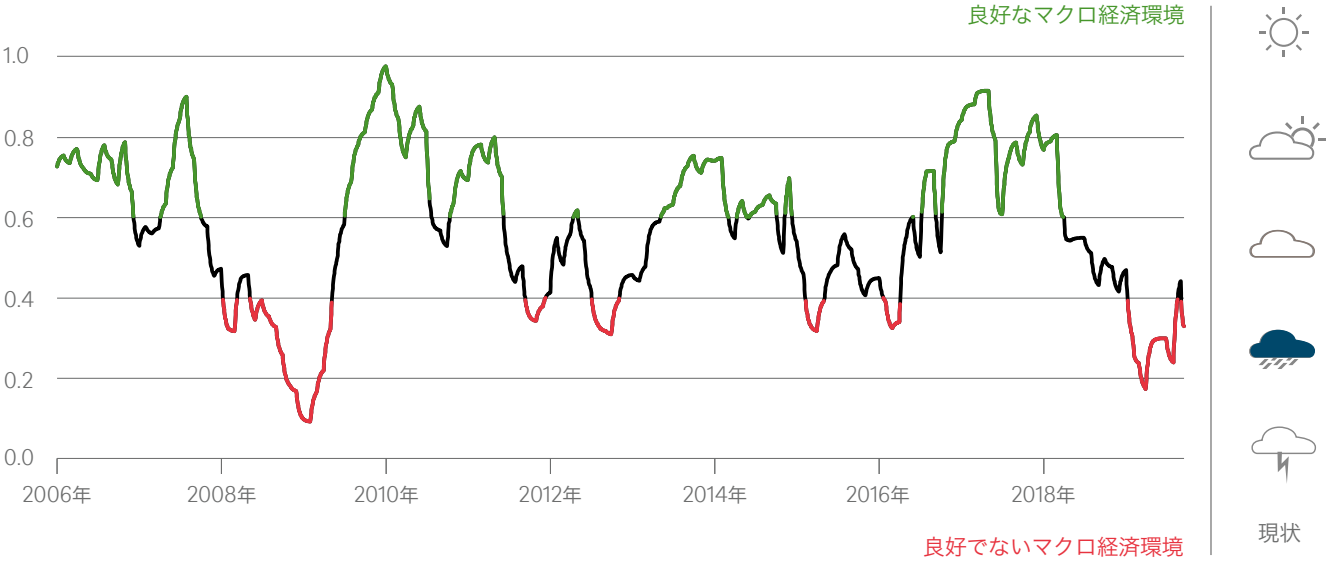


株式	45%
米国株式	25%
欧州株式	6.5%
新興国株式	5%
グローバル株式	5%
日本株式	3.5%
債券	46%
ユーロ投資適格社債	13%
ユーロ圏ソブリン債	11%
米国国債	8%
新興国（主要通貨建）債券	7%
ユーロ・ハイ・イールド社債	5%
米国ハイ・イールド社債	2%
オルタナティブ	6%
転換社債（ユーロヘッジ）	3%
コモディティ	3%
現金	3%

出所：マルチアセット・グループ、DWSインベストメントGmbH、2019年9月10日時点

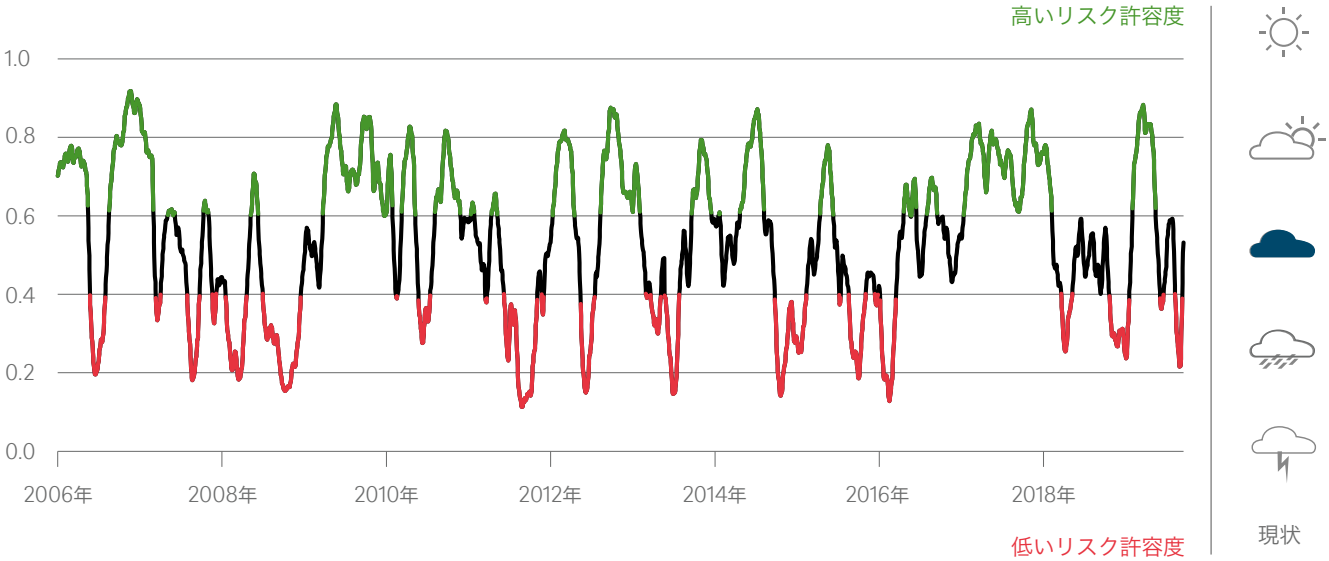
上記アセットアロケーションは、DWSが現時点で考えるユーロ建のバランス型ポートフォリオです。すべてのお客様に適しているものではありません。また、予告なく変更されることがあります。

マクロ経済指標 / マクロ経済指標は広範な経済指標を集約したものです。

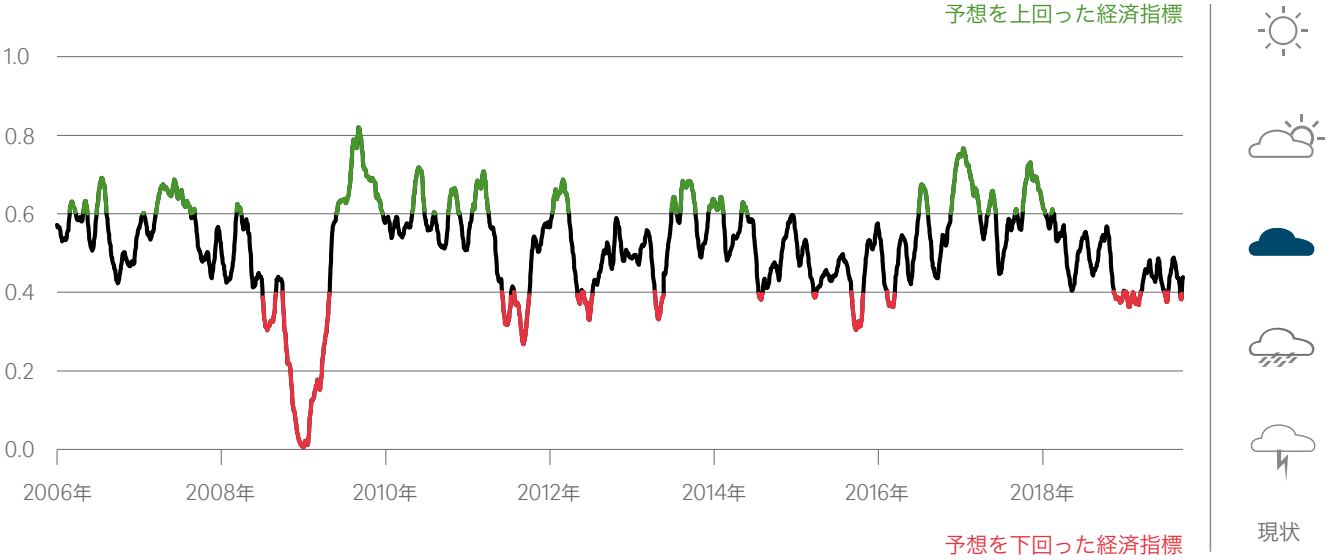


当資料は、情報提供を目的としたものであり、特定の投資商品の推奨や投資勧誘を目的としたものではありません。当資料は、信頼できる情報をもとにDWSインベストメントGmbHが作成したものをドイチェ・アセット・マネジメント株式会社が翻訳して提供しておりますが、正確性・完全性についてドイチェ・アセット・マネジメント株式会社が責任を負うものではありません。オルタナティブ投資は投機的になる可能性があり、非流動性、損失の可能性の高さ、不透明性を含む重大なリスクを伴います。オルタナティブ投資はすべてのお客様に適しているものではありません。当資料記載の内容は将来の運用成果等を保証もしくは示唆するものではありません。当資料記載の予測は、2019年9月19日時点のDWSインベストメントGmbHの見解であり、市場の環境やその他の状況によって予告なく変更することがあります。投資にはリスクが伴います。運用資産額が変動し、損益が発生する場合があります。また、元本が保証されるものではありません。

リスク指標 / リスク指標は金融市場における投資家の足元のリスク許容度を反映したものです。



サプライズ指標 / サプライズ指標は実際の経済指標と事前の市場予想を比べたものです。



出所：DWSインベストメントGmbH、2019年9月19日時点

当資料は、情報提供を目的としたものであり、特定の投資商品の推奨や投資勧誘を目的としたものではありません。当資料は、信頼できる情報をもとにDWSインベストメントGmbHが作成したものをドイチェ・アセット・マネジメント株式会社が翻訳して提供しておりますが、正確性・完全性についてドイチェ・アセット・マネジメント株式会社が責任を負うものではありません。オルタナティブ投資は投機的になる可能性があり、非流動性、損失の可能性の高さ、不透明性を含む重大なリスクを伴います。オルタナティブ投資はすべてのお客様に適しているものではありません。当資料記載の内容は将来の運用成果等を保証もしくは示唆するものではありません。当資料記載の予測は、2019年9月19日時点のDWSインベストメントGmbHの見解であり、市場の環境やその他の状況によって予告なく変更することがあります。投資にはリスクが伴います。運用資産額が変動し、損益が発生する場合があります。また、元本が保証されるものではありません。

マクロ経済／リスクの高まり

GDP成長率（対前年比、単位：%）

	2019年(予測)		2020年(予測)
米国	2.3	↘	2.0
ユーロ圏	1.2	↘	1.1
英国	1.3	→	1.3
日本	0.6	↘	0.2
中国	6.2	↘	6.0
世界	3.3	↗	3.4

財政赤字（対GDP比、単位：%）

	2019年(予測)		2020年(予測)
米国	4.4	↗	4.6
ユーロ圏	0.9	→	0.9
英国	1.6	→	1.6
日本	3.3	↘	2.7
中国	4.8	↘	3.8

消費者物価指数（単位：%）

	2019年(予測)		2020年(予測)
米国[1]	1.9	↗	2.0
ユーロ圏	1.4	→	1.4
英国	1.9	↗	2.0
日本	0.7	↗	1.3
中国	1.7	↘	1.8

経常収支（対GDP比、単位：%）

	2019年(予測)		2020年(予測)
米国	–2.7	↗	–2.6
ユーロ圏	3.3	↘	3.2
英国	–4.3	↗	–3.8
日本	3.2	↗	3.5
中国	0.4	↘	0.2

指標金利（単位：%）

	現在値*		2020年9月(予測)
米国	2.00–2.25	↘	1.50–1.75
ユーロ圏	0.00	→	0.00
英国	0.75	→	0.75
日本	0.00	→	0.00
中国	4.35	↘	4.10

商品市況（米ドル建）

	現在値*		2020年9月(予測)
原油（WTI）	55.4	→	54
金	1,498	↗	1,575
銅（LME）	5,683	↗	6,300

* 出所：ブルームバーグ・ファイナンスL.P.、2019年8月22日時点
[1] コアレート、12月個人消費支出（前年同月比）（%）
予測は2019年8月22日時点の見通しです。
WTI：ウェスト・テキサス・インターミディエート
LME：ロンドン金属取引所

当ページ以降の記号表記について

株価指数、為替相場及びオルタナティブ投資：
矢印は以下の見通しを示します。
（↗）堅調な推移、（→）横ばい傾向、（↘）下落の可能性

債券：
ソブリン債の場合、矢印は以下の見通しを示します。
（↗）利回り上昇、（→）横ばい傾向、（↘）利回り下落
社債や証券化商品等、新興国債券の場合、矢印は米国国債に対するスプレッド（利回り格差、オプション調整後）の見通しを示します。
（↗）利回り格差の拡大、（→）横ばい傾向、（↘）利回り格差の縮小

矢印の色はロングオンリー戦略でのリターンの見通しを示しています。
↘ ↗ ロングオンリーの投資家にとってプラスリターンの可能性
→ プラスリターンの機会は限定的で、マイナスリターンの可能性もあり
↘ ↗ ロングオンリーの投資家にとってマイナスリターンの可能性

当資料は、情報提供を目的としたものであり、特定の投資商品の推奨や投資勧誘を目的としたものではありません。当資料は、信頼できる情報をもとにDWSインベストメントGmbHが作成したものをドイチェ・アセット・マネジメント株式会社が翻訳して提供しておりますが、正確性・完全性についてドイチェ・アセット・マネジメント株式会社が責任を負うものではありません。当資料記載の内容は将来の運用成果等を保証もしくは示唆するものではありません。当資料記載の予測は、2019年8月22日時点のDWSインベストメントGmbHの見解であり、市場の環境やその他の状況によって予告なく変更することがあります。

株式／今後先細りか？

	現在値*		2020年9月（予測）				
			予測値	トータルリターン（予測）[1]	企業利益成長率（予測）	株価収益率への影響	配当利回り
米国（S&P500種株価指数）	2,923	↗	3,000	4.7%	5%	−2%	2.0%
欧州（ストックス・ヨーロッパ600指数）	374	→	370	2.5%	5%	−6%	3.6%
ユーロ圏（ユーロ・ストックス50指数）	3,374	→	3,300	1.5%	5%	−7%	3.7%
ドイツ（DAX指数）[2]	11,747	→	12,000	2.2%	6%	−7%	3.3%
英国（FTSE100種指数）	7,128	↗	7,100	3.5%	2%	−3%	4.8%
スイス（SMI指数）	9,806	→	9,800	3.2%	6%	−6%	3.2%
日本（MSCI ジャパン・インデックス）	906	→	910	2.9%	−4%	4%	2.5%
MSCI エマージング・マーケット・インデックス（米ドル建）	976	↗	1,000	5.5%	7%	−4%	3.0%
MSCI AC アジア（除く日本）インデックス（米ドル建）	605	↗	620	5.1%	6%	−3%	2.7%

* 出所：ブルームバーグ・ファイナンスL.P.、ファクトセット・リサーチ・システムズ、2019年8月22日時点
[1] トータルリターン（予測）は、利回り、配当、キャピタルゲインを含みます。
[2] トータルリターン・インデックス（配当込）

債券／あらゆる国・地域がマイナス利回りに

米国

	現在値*		2020年9月(予測)
米国国債（10年物）	1.61%	→	1.75%
米国地方債[1]	80%	→	80%
米国投資適格社債	112 bp	→	105 bp
米国ハイ・イールド社債	393 bp	→	440 bp
証券化商品：モーゲージ証券[2]	50 bp	→	35 bp

欧州

	現在値*		2020年9月(予測)
ドイツ国債（10年物）	−0.64%	→	-0.50%
英国国債（10年物）	0.52%	→	0.95%
ユーロ投資適格社債[3]	120 bp	→	90 bp
ユーロ・ハイ・イールド社債[3]	370 bp	→	380 bp
証券化商品：カバードボンド[3]	49 bp	→	45 bp
イタリア国債（10年物）[3]	195 bp	→	240 bp

* 出所：ブルームバーグ・ファイナンスL.P.、 2019年8月22日時点
[1] 10年物米国国債に対する10年物地方債（AAA格）の比率
[2] ブルームバーグ・バークレイズMBSフォワード・インデックス
[3] ドイツ国債に対するスプレッド

アジア太平洋

	現在値*		2020年9月(予測)
日本国債（10年物）	−0.24%	→	−0.10%
アジア社債	276 bp	→	295 bp

世界

	現在値*		2020年9月(予測)
新興国ソブリン債	360 bp	↘	350 bp
新興国社債	349 bp	↘	350 bp

通貨

	現在値*		2020年9月(予測)
ユーロ（対 米ドル）	1.11	→	1.15
米ドル（対 日本円）	106	→	105
ユーロ（対 英ポンド）	0.90	→	0.89
英ポンド（対 米ドル）	1.23	↗	1.29
米ドル（対 中国元）	7.08	→	7.10

予測は2019年8月22日時点の見通しです。
bp=ベーシスポイント

当資料は、情報提供を目的としたものであり、特定の投資商品の推奨や投資勧誘を目的としたものではありません。当資料は、信頼できる情報をもとにDWSインベストメントGmbHが作成したものをドイチェ・アセット・マネジメント株式会社が翻訳して提供しておりますが、正確性・完全性についてドイチェ・アセット・マネジメント株式会社が責任を負うものではありません。当資料記載の内容は将来の運用成果等を保証もしくは示唆するものではありません。当資料記載の予測は、2019年8月22日時点のDWSインベストメントGmbHの見解であり、市場の環境やその他の状況によって予告なく変更することがあります。

パフォーマンス / 概要

過去12カ月毎のパフォーマンス

	2014年8月 -2015年8月	2015年8月 -2016年8月	2016年8月 -2017年8月	2017年8月 -2018年8月	2018年8月 -2019年8月
アジア社債	2.1%	10.2%	2.4%	−0.9%	10.9%
DAX指数	8.3%	3.2%	13.8%	2.6%	−3.4%
新興国ソブリン債	−3.0%	14.8%	4.5%	−4.6%	13.1%
新興国社債	−1.1%	10.9%	5.8%	−1.4%	11.8%
ユーロ・ハイ・イールド社債	2.0%	6.8%	6.4%	1.2%	4.8%
ユーロ投資適格社債	0.4%	6.7%	0.6%	0.0%	6.7%
ユーロ証券化商品:カバードボンド	2.1%	3.7%	−1.0%	0.4%	4.9%
ユーロ・ストックス50指数	5.7%	−4.8%	16.1%	1.8%	3.8%
FTSE100種指数	−5.0%	13.0%	14.0%	4.1%	1.4%
ドイツ国債(10年物)	2.3%	8.0%	−2.0%	1.2%	8.5%
イタリア国債(10年物)	4.7%	9.0%	−3.3%	−6.6%	22.1%
日本国債(10年物)	2.0%	3.8%	−0.4%	−0.5%	3.6%
MSCI AC アジア(除く日本)インデックス	−16.1%	12.9%	24.8%	2.8%	−6.3%
MSCI AC ワールド・インデックス	−5.8%	7.9%	17.8%	12.0%	0.3%
MSCI エマージング・マーケット・インデックス	−22.9%	11.8%	24.5%	−0.7%	−4.4%
MSCI ジャパン・インデックス	4.2%	2.9%	13.7%	9.0%	−5.6%
S&P500種株価指数	0.5%	12.6%	16.2%	19.7%	2.9%
ストックス・ヨーロッパ600指数	9.4%	−1.9%	12.5%	5.7%	3.0%
SMI指数	5.0%	−3.7%	12.4%	4.0%	14.0%
米国ハイ・イールド社債	−2.9%	9.1%	8.6%	3.4%	6.6%
米国投資適格社債	−0.4%	9.1%	1.9%	−1.0%	13.0%
米国証券化商品:モーゲージ証券	2.7%	3.9%	0.8%	−0.5%	7.1%
米国国債(10年物)	3.4%	7.0%	−1.4%	−3.1%	13.7%
英国国債(10年物)	5.4%	12.3%	−1.0%	−1.1%	9.2%

出所:ブルームバーグ・ファイナンスL.P.、2019年8月30日時点

当資料は、情報提供を目的としたものであり、特定の投資商品の推奨や投資勧誘を目的としたものではありません。当資料は、信頼できる情報をもとにDWSインベストメントGmbHが作成したものをドイチェ・アセット・マネジメント株式会社が翻訳して提供しておりますが、正確性・完全性についてドイチェ・アセット・マネジメント株式会社が責任を負うものではありません。当資料記載の内容は将来の運用成果等を保証もしくは示唆するものではありません。当資料記載の予測は、2019年8月30日時点のDWSインベストメントGmbHの見解であり、市場の環境やその他の状況によって予告なく変更することがあります。

会社紹介

DWSについて[1]

- すべての主要な資産クラスを網羅した商品及び運用ソリューションを通じて、幅広い投資機会へのアクセスを投資家に提供。その運用ソリューションは投資信託から高度にカスタマイズされたポートフォリオの構築まで多岐にわたる
- 個人投資家及び機関投資家のお客様に、伝統的資産からオルタナティブに至る幅広い資産運用ソリューションを提供
- 約7,190億ユーロの運用資産残高（2019年6月末）を誇る世界有数の資産運用機関

チーフ・インベストメント・オフィスについて

- DWSのグローバル・チーフ・インベストメント・オフィサーであるステファン・クロイツカンプが統括し、DWSの運用プロセスの中心的役割を果たす
- 経済及び市場に関する統一された見解の策定のため、グローバルな運用体制が有する専門性を集結
- グローバル投資見通しであるCIOビューを策定する
- ポートフォリオ・マネジメント、調査及び営業チームの連携のための窓口となり、円滑な意思疎通を可能にする

[1] DWSはDWSグループGmbH&Co.KGaA及びその子会社が事業活動を行う上でのブランド名です。DWSの商品やサービスは、契約書、合意書、提案資料または該当商品やサービスの関連書類に明記された法人よりお客様へ提供されます。

※2018年3月、ドイチェ・アセット・マネジメントは、欧州、特にドイツにおいて広く認知されている「DWS」を世界共通ブランドとして採用しました。

ご留意事項

当資料は、情報提供を目的としたものであり、特定の投資商品の推奨や投資勧誘を目的としたものではありません。当資料は、信頼できる情報をもとにDWSインベストメントGmbHが作成し、2019年10月10日に発行したものをドイチェ・アセット・マネジメント株式会社が翻訳して提供しておりますが、正確性・完全性についてドイチェ・アセット・マネジメント株式会社が責任を負うものではありません。当資料記載の情報は、作成時点のものであり、市場の環境やその他の状況によって予告なく変更することがあります。市場や経済に関するデータや過去の運用実績は記載時点のものであり、将来の傾向、数値等を保証もしくは示唆するものではありません。投資にはリスクが伴います。価格変動等により、当初投資元本を割り込むことがあります。

ドイチェ・アセット・マネジメント株式会社

金融商品取引業者　関東財務局長（金商）第359号
加入協会：日本証券業協会、一般社団法人投資信託協会、一般社団法人日本投資顧問業協会、
一般社団法人第二種金融商品取引業協会

ドイチェ・アセット・マネジメント株式会社は、DWSグループの日本における拠点であり、投資信託ビジネス・機関投資家向け運用ソリューションの提供における長年の経験、ノウハウ及び実績を有します。グローバルな運用体制と独自の洞察力を駆使した質の高いサービスをご提供するとともに、日本市場の資産運用ニーズに的確にお応えすることを目指します。

© 2019年9月 ドイチェ・アセット・マネジメント株式会社